

# 2018年度 事業説明会



株式会社 アサカ理研

2018年12月14日

(証券コード 5724)



1. 2019年9月期 業績予想
2. 今後の事業戦略
3. ESG活動を通じた企業価値の向上



1. 2019年9月期 業績予想
2. 今後の事業戦略
3. ESG活動を通じた企業価値の向上



# 2019年9月期 連結業績予想

株式会社アサカ理研

## ■ 売上高の減少

レアメタル製品の販売が拡大する一方、主要顧客の生産量縮小、貴金属価格の下落予測により、売上高は微減となる見通し。

## ■ 経常利益の減少

原材料供給分野の増加に伴い、品質管理を含めた管理部門の強化を図るため、一過性のものを含む営業費用が増加。

[想定価格]

金：4,200円/g

銅：650円/kg

(単位：百万円)

	2018年9月期 実績		2019年9月期 予想	
	金額	前期比	金額	前期比
売上高	8,765	4.6%	8,743	▲0.3%
営業利益	337	62.0%	248	▲26.6%
経常利益	333	60.1%	236	▲29.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	234	▲14.1%	180	▲23.3%
1株当たり 当期純利益金額		91.98円		70.45円

- 設備投資額は事業用用地の取得や、レアメタルでの新製品開発等により増加。
- 研究開発費は製造工程の自動化、レアメタルの製品開発、分離精製等の基礎技術を中心に投資。
- 減価償却費は設備投資の増加に伴い、増加を見込む。





1. 2019年9月期 業績予想
2. 今後の事業戦略
3. ESG活動を通じた企業価値の向上

事業の特徴

電子部品デバイス工業分野の生産動向や  
貴金属・銅の価格変動に左右されやすい

持続的な成長を果たす

既存事業  
基盤強化

新規事業  
創出

海外展開  
収益力強化

## 目指すべき方向性

## 既存事業

- 他社に追従を許さない生産技術の確立
- 製造工程のロボット化による本質的な合理化
- 付加価値を上げる加工技術のアップ

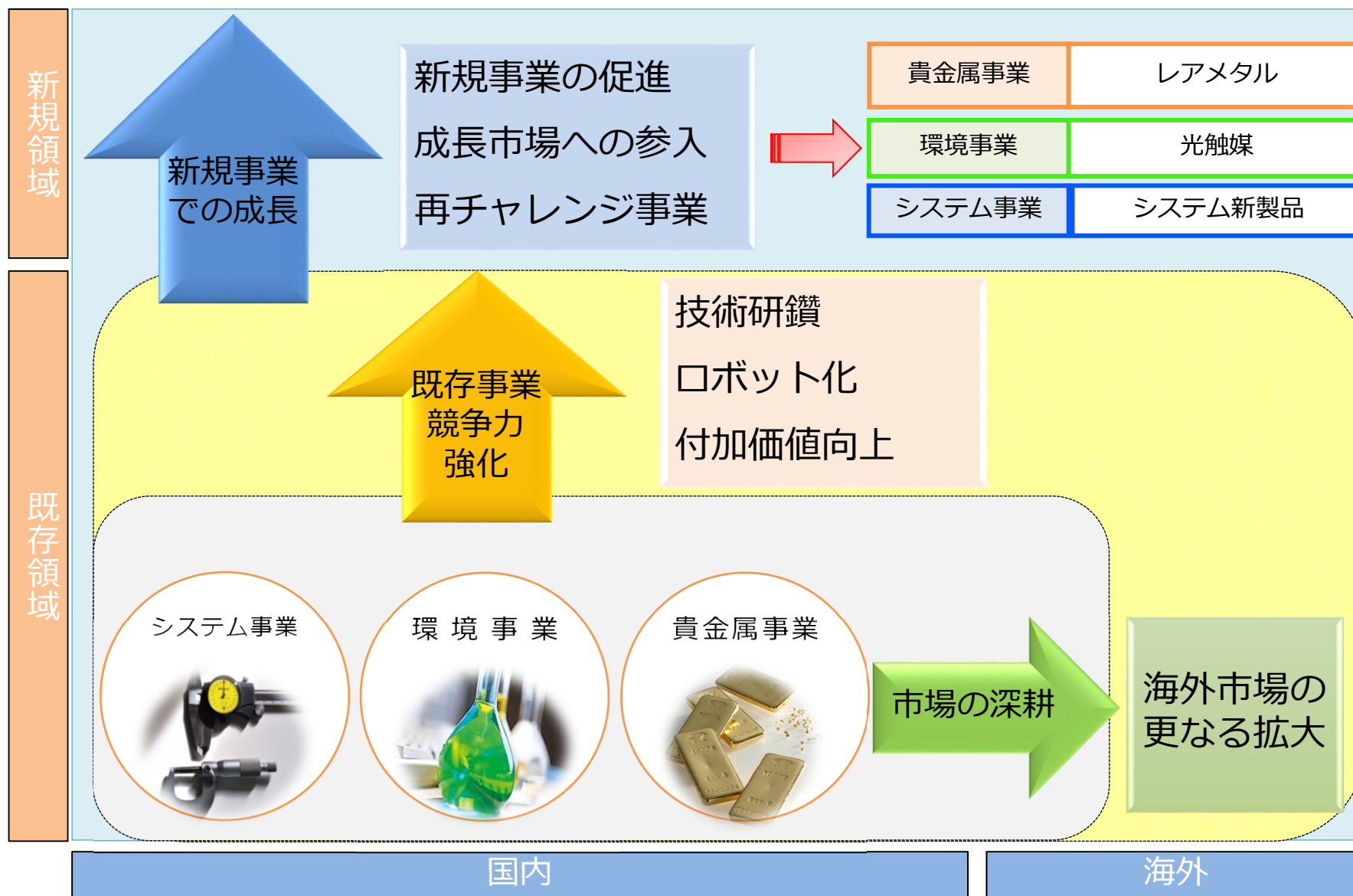
## 新規事業

- 光学ガラス、電子部品への原材料の販売促進[販売開始]
- 光触媒事業の再チャレンジ[販売開始]
- 電気自動車、IoT等の成長市場への参入[研究開発中]

## 海外事業

- 独自技術・ノウハウを海外子会社へ展開
- マーケットの拡大・深耕
- 海外子会社の安定的な黒字体質化





## 既存事業

### 生産技術の確立による競争力の向上

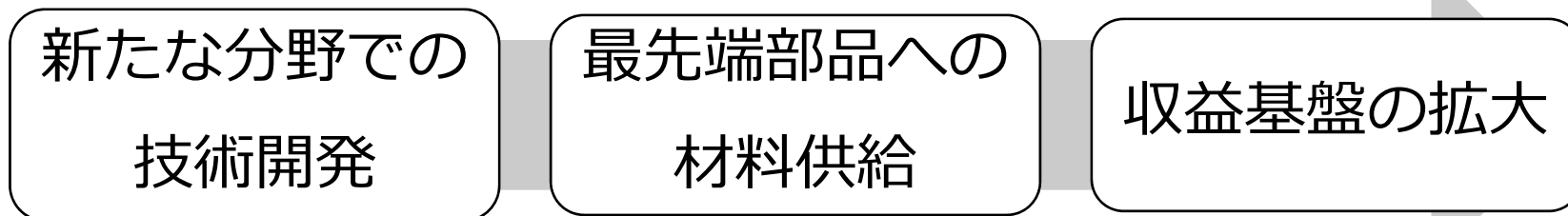
#### 製造工程のロボット化・自動化による本質的な合理化

- 効率化によるコスト削減
- 人材は、より成長性・付加価値の高い業務に集中へ

#### 付加価値を上げる加工技術のアップ

- 地金の販売から、加工度を上げた金属材料、化合物販売へ

# 新規事業 レアメタル



## 新規事業 光触媒

提携先の方針変更で太陽光発電パネル向けは大幅に減少

メインターゲットを外壁・ガラス向けに変更

塗料メーカー等と提携し販売量拡大へ

これまで

- 塗装店への小売りが中心
- 販売規模は小さい



現在

- 塗料メーカー、塗料販売店  
認証取得、OEM製品供給へ
- 販売量の拡大

## 新規事業 システム事業

### 事業機会

- データ改ざん問題による検査・品質管理にかかる重要性の再認識
- I o TやI C Tを利用した生産性向上

更なる成長に向けた  
事業再構築

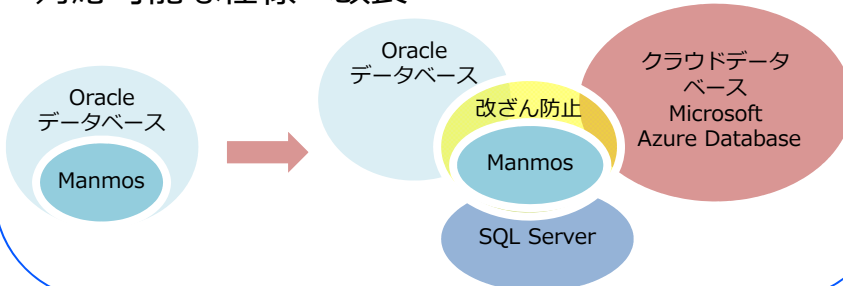
### 当社の強み

- I o Tに応用可能なI / F技術
- 数百社以上での採用実績

## 品質管理システム

### ■ 新Manmosのリリース

ダイレクトにデータの取り出しが可能であり、検査作業の省力化と人為的ミスの防止を実現  
安価なSQL Server、クラウドデータベースに対応可能な仕様へ改良



## 生産管理システム

### ■ B-Chronusの開発

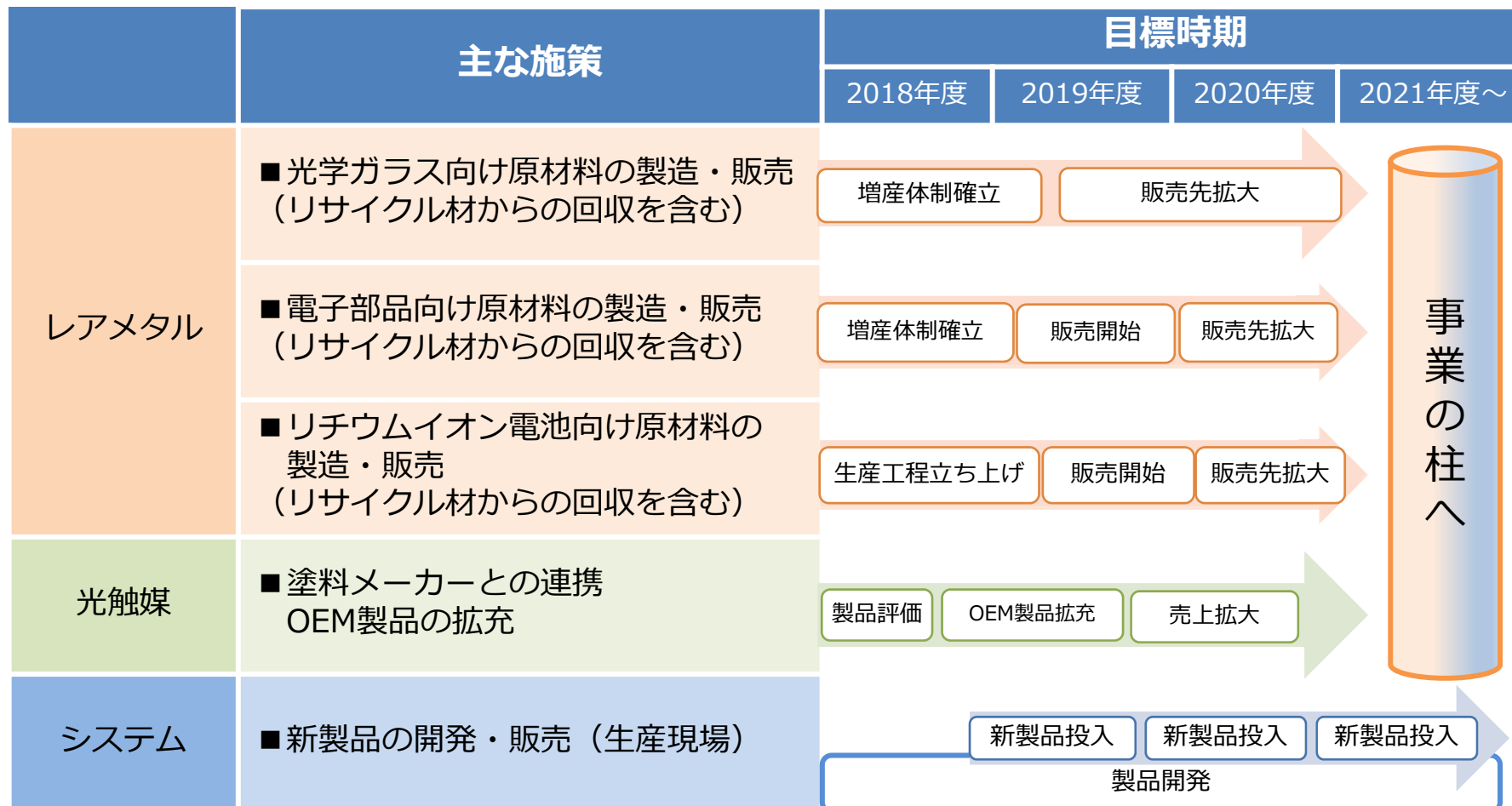
(位置センサー応用効率改善システム)

無線送信ユニットBeaconにより、作業者と設備の位置情報を常時把握。対応が必要になった装置から最も近い作業者を呼び出す仕組み



### I o T、I C Tを活用

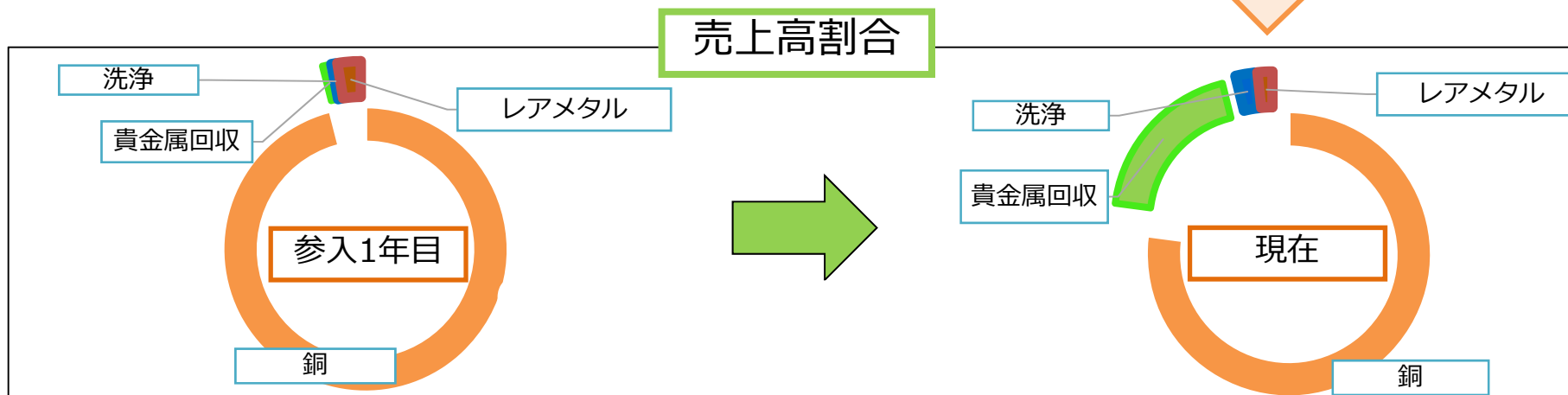
設備のダウンタイムや作業者の負荷軽減に貢献



## 海外事業

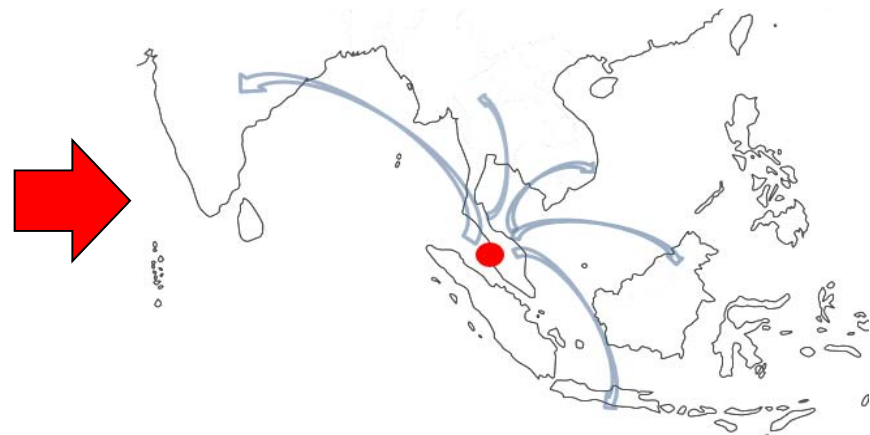
顧客拡大・安定黒字化

■ 貴金属関連事業の増加  
(貴金属回収・洗浄・レアメタル)



主な施策	
数量増加	海外企業との協力
	日系企業へのアプローチ
品目増加	新規ライセンス取得
	独自技術・ノウハウの展開

## マーケットの拡大





1. 2019年9月期 業績予想
2. 今後の事業戦略
3. ESG活動を通じた企業価値の向上



- SDGsから関連性が高いテーマに取り組む
- ESG活動実践により、更なる企業価値向上へ

<b>E</b> 環境		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 天然資源の再生・再利用による環境への貢献</li> <li>■ イノベーションによる生産性・付加価値向上</li> </ul>
<b>S</b> 社会		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教育制度の拡充による充実した教育体制</li> <li>■ 働き方改革の着実な実行</li> </ul>
<b>G</b> 企業統治		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 責任ある原材料の調達活動による平和への貢献</li> <li>■ コーポレート・ガバナンスの強化</li> </ul>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
世界を良くするための17の目標



※SDGs（持続可能な開発目標）とは  
2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成。

## ■「資源の有効活用」・「環境保全」

創業当時から変わらない2つの視線



### アサカ理研とリサイクル事業

昭和44年

エッチング廃液再生  
及び銅回収



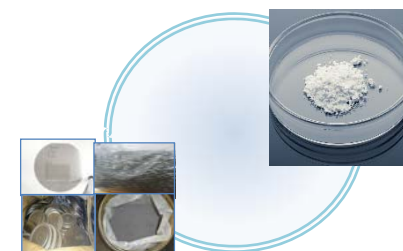
昭和46年

基盤屑からの金回収



平成28年

光学レンズからの  
レアメタル回収



そしてこれからも、環境と共に歩む

- 既存概念にとらわれない発想力と「バラック思考」
- イノベーションを通じた、生産性・付加価値向上



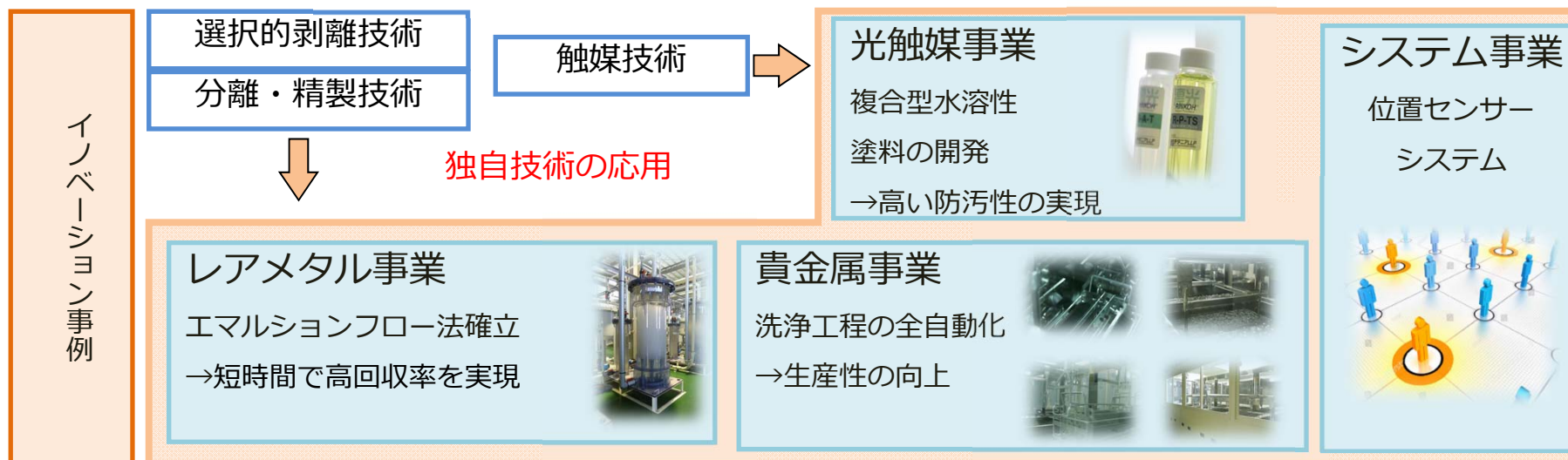
## 【バラック思考】

バラックを組んでみる  
自分たちでやってみる  
すぐ試してみる



- ・ 原理を理解できる
- ・ うまくいくコツが分かる
- ・ 応用が可能
- ・ トラブルの対処が早い
- ・ 購入品よりも良いものを作れることも

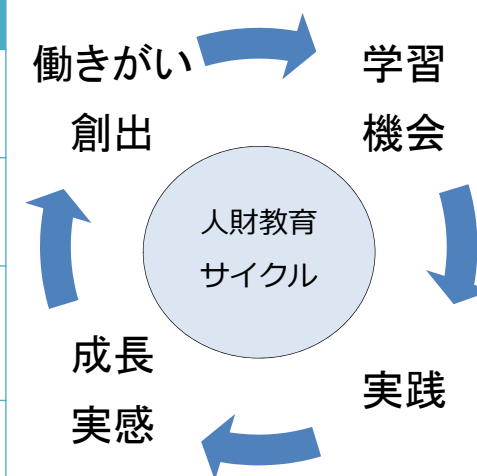
## イノベーションの 原点



- 社員一人ひとりが能動的に学べる機会の提供
- より実践的で、現場に近い全社セミナー  
→成長の実感を通じた、働きがいの創出



研修種類	概要
入社時集合研修	約1ヶ月間の集合研修で社会人としての一般知識や当社技術を学び、その後は各現場において実践的にスキルを習得
管理職任用前研修	管理職に任用する者を対象とした社外研修を実施。組織力向上及びマネジメント手法を中心に、管理者としてのスキルを習得
全社セミナー	交代制で当社社員が講師を務める独自研修。プレゼンテーション・法律・経理と多角的な観点から実施し、実際の業務内容にも即座に活かせる実践型の研修
実務的勉強会	製造部門を対象として、薬品の取扱い手法や設備機械の取扱方法を実際の現場で学ぶ、実務的な勉強会





- 仕事と家庭との両立に向けた多様な働き方の構築  
→フレックス制度の導入
- 業務自動化システム導入により、新しい働き方へ  
→統合基幹業務システム(ERP)・ソフトウェアロボット(RPA)

平成30年1月  
フレックス制度導入

平成30年9月  
ERP稼働

平成31年2月  
RPA稼働

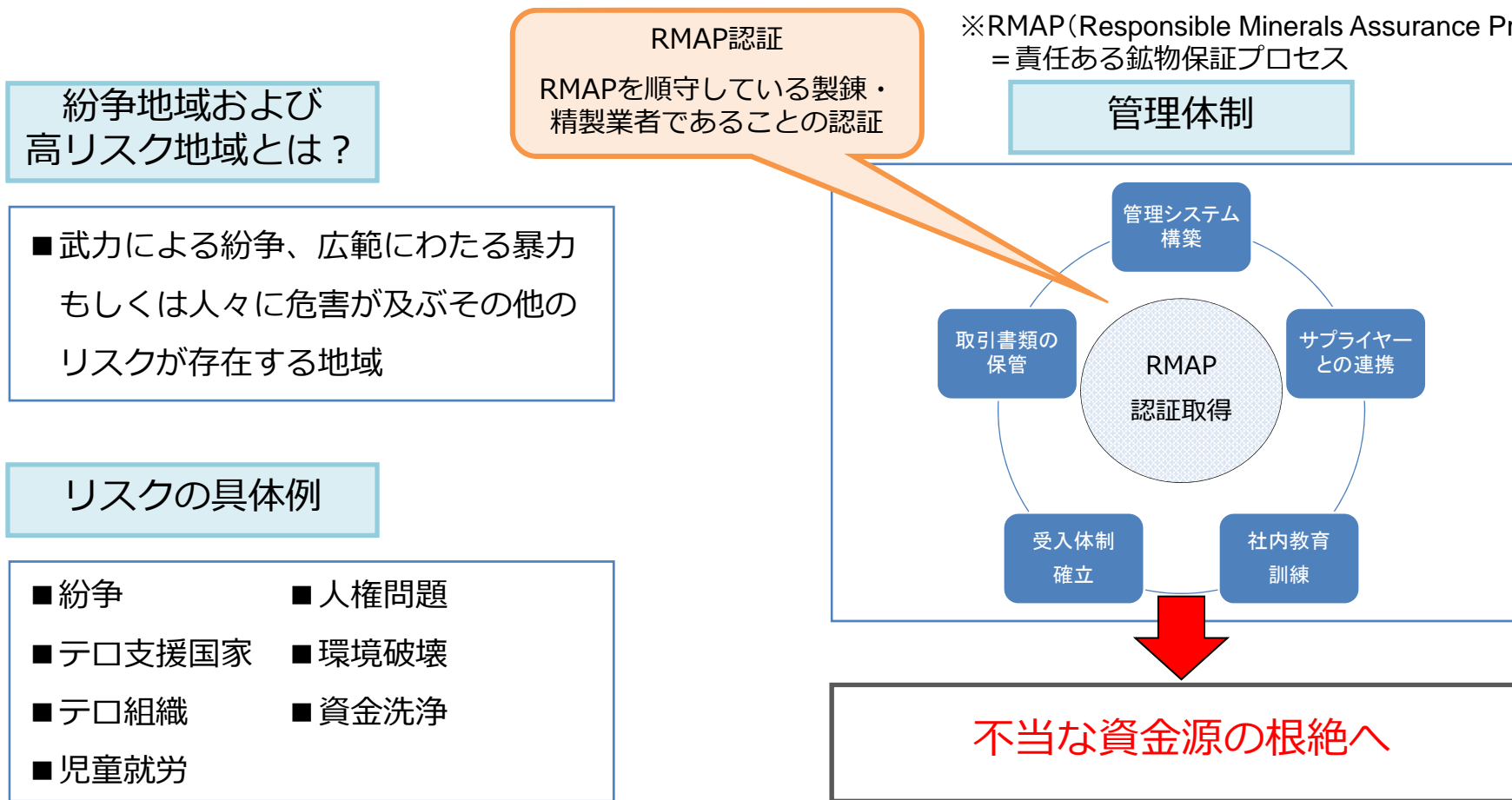






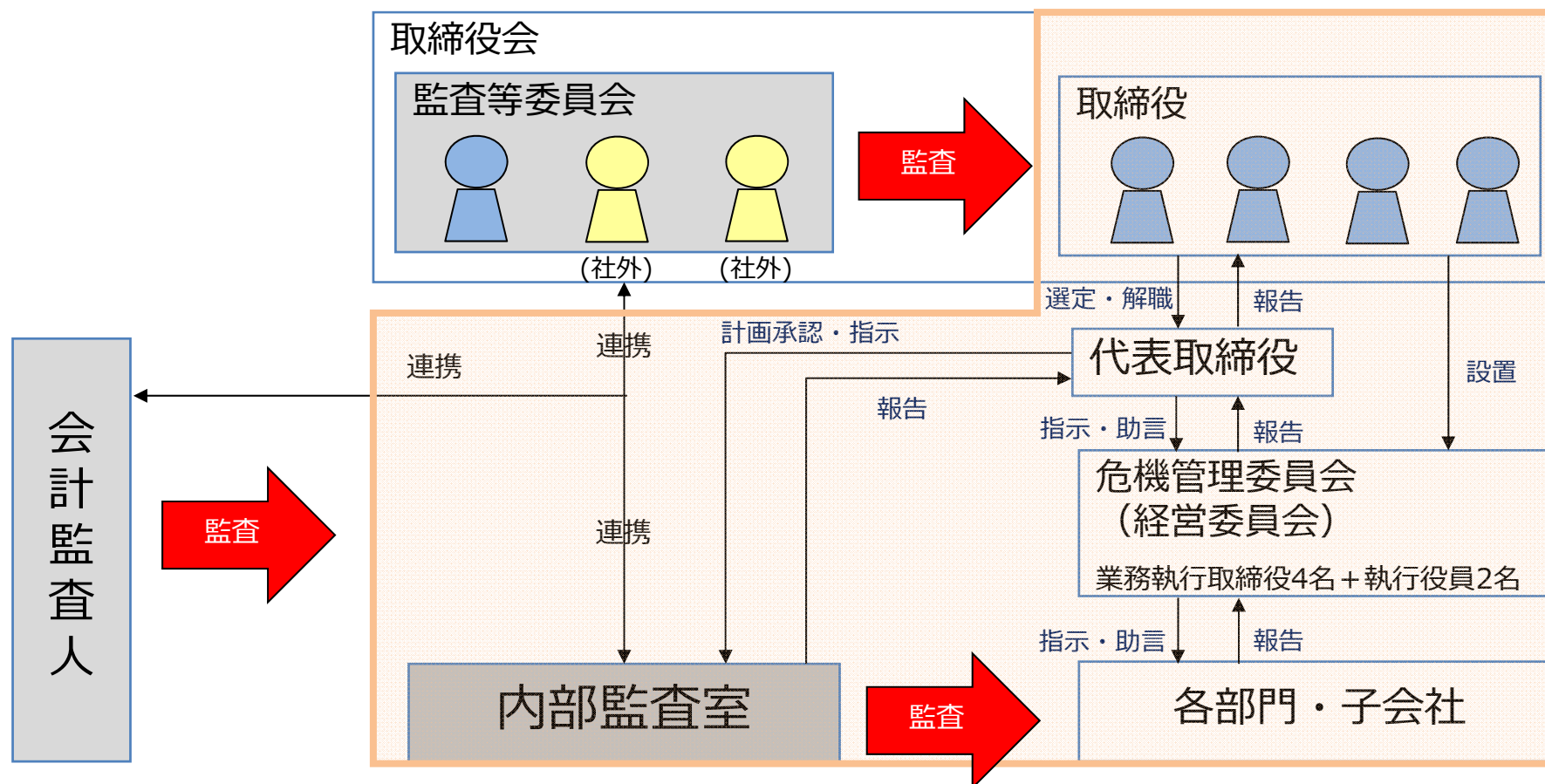
## ■ 紛争地域および高リスク地域からの責任ある原材料の調達活動を通じ、平和な社会実現へ貢献

※RMAP (Responsible Minerals Assurance Process)  
= 責任ある鉱物保証プロセス





- 監査等委員会を設置することで、より監督機能を高める
- 効果的な監査等委員会・会計監査人・内部監査室の三位監査
- 危機管理委員会を設置し、当社が抱えるリスクの管理対応





I Rに関するお問い合わせは下記までお願いいたします

株式会社アサカ理研 管理本部

〒963-0725

福島県郡山市田村町金屋字マセロ47番地

TEL : 024 (944) 4744

FAX : 024 (944) 4749

E-MAIL : [ir@asaka.co.jp](mailto:ir@asaka.co.jp)

URL : <http://www.asaka.co.jp/>



- 本書には、当社及び当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っておりまして今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 本書はいかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付の申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。



# MEMO

株式会社アサカ理研

---